



多くの女性を子宮頸がんから守るために

子宮頸がんワクチンと 10万個の子宮

市民公開講演会

入場
無料

とき 2019年**11月9日**(土)
14時~16時 (13時半開場)

ところ **長崎大学病院 1階 第3講義室**
(長崎市坂本1丁目7-1)

*病院正面玄関からご入館ください。
*構内に来場者用駐車場はありません。
公共交通機関でご来場ください。



講師

むら なか り こ

村中 璃子先生

医師・ジャーナリスト

北海道大学医学部卒。一橋大学社会学部卒、同大学社会学研究科修士課程終了。世界保健機関西太平洋事務局(WHO/WPRO)の新興・再興感染症チーム等を経て、現在では医業の傍ら執筆・講演活動を行っている。HPVワクチン問題をはじめとするワクチンのほか、遺伝子検査、移植、パンデミックと国防、がん治療と代替医療の問題など執筆テーマは多岐にわたる。京都大学医学研究科非常勤講師。2017年、科学誌『ネイチャー』の主催するジョン・マドックス賞を日本人として初めて受賞。

【著書】『10万個の子宮-あの激しいけいれんは子宮頸がんワクチンの副反応なのか』平凡社 2018年

厚生省が2013年6月にHPVワクチン(子宮頸がんワクチン)の積極的な勧奨を中止してから6年目を迎えました。HPVワクチンは現在でも定期接種(公費負担)ですが、70%を超えていた接種率は、現在では1%未満となっています。

日本国内で子宮頸がんが増加傾向にあるなか、HPVワクチンは世界保健機構(WHO)も接種を推奨しており、積極的接種再開を求める意見が増えています。HPVワクチンによる子宮頸がん予防効果や副反応の実態などについて理解を深めるため、講演会を開催します。

共催：長崎県産婦人科医会・長崎県保険医協会

後援：長崎県医師会・長崎県小児科医会

毎日新聞長崎支局・NBC長崎放送・西日本新聞社長崎総局・朝日新聞社・KTNテレビ長崎・NCC長崎文化放送・読売新聞西部本社・長崎新聞社・株式会社長崎ケーブルメディア・株式会社長崎国際テレビ・NHK長崎放送局

お問い合わせ先：長崎県保険医協会 TEL 095-825-3829